



2024年3月18日(月)19時30分より、純福音東京教会の大聖殿で札幌神学校の学校長である汝矣島純福音教会イ・ヨンフン担任牧師をお招きし、札幌神学校の卒業式礼拝を神様にお捧げしました。(詳細は次頁を参照)



## 告知

### 宣教旅行に同行する聖徒を募集します

2024年の日本宣教・世界宣教の計画をホームページに公開しました。日本宣教は募集中の宣教旅行がありますので、希望する方は教区長までお知らせください。

日本宣教

世界宣教



### 目次

- P2 : 札幌神学校 第一期生 卒業式礼拝
- P2 : 北海道宣教 札幌聖殿祝福聖会
- P3 : チェ・ヨンウ牧師 新年祝福聖会
- P4 : 証しの聖会
- P4 : 世界宣教 台湾・台北 新生命教会 祝福聖会

家族新聞は、WebとLINEでもご覧になれます。

Webページ



公式LINE



# 札幌神学校 第一期生 卒業式礼拝 2024.3.18

ただ、聖霊があなたがたにくだる時、あなたがたは力を受けて、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、さらに地の  
はてまで、わたしの証人となるであろう。 — 使徒行伝 1:8 —



イ・ヨンフン牧師は「わたしの証人となるであろう」という主題でメッセージを取り次ぎ、私たちが主の証人となるための秘訣は“聖霊に満たされること”であると強調しました。

「私たちに聖霊が臨めば権能を受けることができます。権能を受けたら、私たちの体験をそのまま宣べ伝えることで、主の証人となることができます。」と伝えました。

「日本には800万の偶像が存在していると言われ、それだけ悪しき霊が多いことを認めなければなりません。日本の福音化が簡単ではない理由はここにあります。だからこそ、私は聖霊を求めなければいけません。教会を建てることは一番の伝道であり、リバイバルに繋がります。それを成し遂げるために最も必要なことは、“聖霊充滿”であることを胸に刻み、皆が聖霊に満たされ権能を受けることができますように。」と純福音東京教会の聖徒を祝福しました。

続けて挨拶に立った札幌神学校の理事長である志垣重政担任牧師は、開校から卒業に至る迄のエピソードを披露し、卒業生のためにメッセージを送りました。

「チョー・ヨンギ先生とイ・ヨンフン先生には共通点があります。勤勉であり、時間を守ること、謙遜であること、全てのことを神様に栄光を還そうとする姿勢でいること、祈ること、そして聖霊充滿であることです。説教の上手い牧会者ではなくイエス様充滿な説教者に。キャリアのある牧会者ではなく聖徒の方々を愛するイエス様充滿な牧会者になるように。」と熱いメッセージを贈りました。

卒業式礼拝はキム・ジョンイル牧師(札幌聖殿担当牧師)の司会で進行し、代表祈禱を札幌キリスト聖餐教会の粟屋信吾牧師、聖書朗読を名寄聖書キリスト教会の福森由宣牧師が務め、山手町教会(苫小牧)の大坂太郎担任牧師が激励の辞を述べ、札幌神学校の教授陣が礼拝に仕えて神様に感謝をお捧げしました。

4名の教授陣のほか、韓国アッセンブリーズ・オブ・ゴッド総務のオム・ジンヨン牧師、汝矣島純福音教会宣教委員長のソン・テファン長老より祝辞があり、札幌神学校第一期卒業生を祝福しました。

日本宣教のために選ばれ、この度卒業を迎えた4名のこれからの活躍に期待し、主に尊く用いられる器となりますように、お祈りいたします。



## 北海道宣教・札幌聖殿祝福聖会 2024.2.11 - 13

2月11日(主)~13日(火)、北海道宣教会を中心とする宣教団が札幌聖殿を訪れ、2回の祝福聖会をお捧げしました。

### 聖会初日：私には乏しいことがない

主はわたしの牧者であって、わたしには乏しいことがない。(後略)  
— 詩篇 23:1-3 —

2月11日(主)19時より、志垣重政担任牧師は「私には乏しいことがない」を主題としてメッセージを取り次ぎました。

「困難に直面したとき、環境を見つめると絶望的に感じてしまいます。そのような時こそイエス様を見つめて、環境に乏しいことがないことを悟ることが大切です。主を見つめる時、平安の緑の牧場を見ることができます。このような体験は、御言葉を信じる者だけに起こります。信仰によって心に平安が臨み、夢が成就する恵みを体験する聖徒となりますように。」と宣べ伝えました。

### 聖会2日目：神の御子イエスキリスト

イエスは、この書に書かれていないしるしを、ほかにも多く、弟子たちの前で行われた。(後略) — ヨハネによる福音書 20:30-31 —

2月12日(月)11時より、志垣重政担任牧師が「神の御子イエスキリスト」の主題でメッセージを取り次ぎました。

「ヨハネによる福音書には、イエス様が神の御子であることを証明するために、神でなければ起こすことのできない7つの奇跡を取り上げ、記録されています。奇跡の御言葉を悟ることを通して、イエス様が神であり、救い主であることを確信することができます。イエス様との真の出会いを通して、素晴らしい祝福された人生を歩みますように。」と祝福の御言葉を分かち合いました。

札幌聖殿では、路傍伝道をはじめ、韓国語教室や音楽会などを通して福音を伝えており、多くの実を結んでいます。北海道地域が更にリバイバルし、神様の奇跡と栄光が現れますようお祈りいたします。



# チェ・ヨンウ牧師 新年祝福聖会 2024.1.3 - 5

1997年から約4年間、純福音東京教会の第8代担任牧師を務め、現在は汝矣島純福音教会のオサンリ祈禱院で副院長を務めている崔龍雨(チェ・ヨンウ)牧師をお招きし、2024年1月3日(水)から5日(金)までの3日間、新年祝福聖会を開き、礼拝をお捧げしました。

## 聖会初日:信仰生活の新しい歴史

「あなたがたは、さきの事を思い出してはならない、また、いにしえのことを考えてはならない。見よ、わたしは新しい事をなす。やがてそれは起る、あなたがたはそれを知らないのか。わたしは荒野に道を設け、さばくに川を流れさせる。  
(後略) — イザヤ書 43:18 -21 —

1月3日(水)、チェ・ヨンウ牧師は、「信仰生活の新しい歴史」という主題でメッセージを取り次ぎました。

「新年にあたり、私たちの霊と心を新たにし、信仰を発展させていくことが重要です。現状に満足すると後退していきます。過去の成功を顧みず、過去の失敗は悔い改めて克服し、新しい挑戦をすることで、神様が私たちが新しくしてくれます。」と私たちが2024年に成功的な信仰生活を送ることができる方法を聖書から解き明かしました。そして、それを体現するためには、悔い改めの祈りが重要であることを強調しました。

純福音東京教会の聖徒がキリストの血潮により清くなり、発展し、教会がリバイバルするようにと祝福しました。



## 聖会2日目:夢を見、祈り、語れ

もしそこに彼のためにひとりの天使があり、千のうちのひとりであって、仲保となり、人にその正しい道を示すならば、神は彼をあわれんで言われる、『彼を救って、墓に下ることを免れさせよ、わたしはすでにあがないしるを得た。彼の肉を幼な子の肉よりもみずみずしくならせ、彼を若い時の元気に帰らせよ』と。(後略) — ヨブ記 33:23-30 —

1月4日(木)に行われた聖会の2日目は、「夢を見、祈り、語れ」という主題でメッセージを取り次ぎ、ヨブの試練と復活の御言葉を通して、四次元の霊性の核心は、仲保者となるイエス・キリストとの出会いであり、それが必要であることを解き明かしました。

「私たちは、今がどんなに成功していて順調であっても、サタンの訴えと攻撃により、何が起こるか分からない弱さを認めなければなりません。神の御前で仲保者なしに義人はひとりもいません。サタンは私たちの罪を通して働きます。だからこそ、イエス・キリストの十字架の血潮に寄り頼み、悔い改めなければなりません。」と伝えました。

そして、「その上で信仰をもって夢を持ち、祈り、語ることで、ヨブの体を幼な子のような体に復活させた神様が、私たちにも働いてくださいます。」と伝え、純福音東京教会の聖徒を励ました。



## 聖会最終日:手を上げて勝った戦い

(前略) モーセが手を上げているとイスラエルは勝ち、手を下げるとアマレクが勝った。しかしモーセの手が重くなったので、アロンとホルが石を取って、モーセの足もとに置くと、彼はその上に座した。そしてひとりはこちらに、ひとりはこちらにいて、モーセの手をささえたので、彼の手は日没までさがらなかった。ヨシュアは、つるぎにかけてアマレクとその民を打ち敗った。  
— 出エジプト記 17:8-13 —



1月5日(金)の聖会最終日には、「手を上げて勝った戦い」という主題でメッセージを取り次ぎ、私たちのこの世での働きは霊的な戦いであることを強く再認識し、必ず勝利しなければならないことを強調しました。

「私たちの戦いは、霊的な戦いであることを強く認識しなければなりません。悪魔に攻撃されたら、まずは悔い改めて罪の汚れを清め、迫害する勢力が崩れるまで悪魔に敵対し祈り続けなければなりません。そして、神様に従順し忍耐することで、必ず勝利することができます。」と伝え、霊的な戦いに勝利する純福音東京教会の聖徒となるようにと祝福しました。

そして、モーセの手をアロンとホルが支えたように、霊的指導者を支える聖徒となり、純福音東京教会の福音のための働きが強められ、日本一千万救霊が必ず成し遂げられると宣言しました。



## 証しの聖会

2024.3.20

3月20日(祝・水)11時より、“証しの聖会”と題して、ベツレヘム聖歌隊を中心とした聖歌隊の特別賛美と聖徒の証しの分かち合いを通して、神様の栄光を現わす聖会を神様にお捧げしました。

2人の聖徒がそれぞれの奇跡の体験を通して、信仰の仲間の大切さと、執り成しの祈りの力による癒し、そして苦難の体験は神様に近づくことができる神様の偉大なご計画であったことを証しました。

## 1. 心身の苦難からの回復と神様との出会い (濱野拓哉 聖徒)

シオン聖歌隊として活躍する濱野拓哉聖徒は、学業を始めとする環境の困難から、深刻な心身の問題に直面する試練の中で、神様と出会い、病から立ち上がった奇跡の体験を分かち合いました。

自身のために3日間の断食を厭わず祈り、「神様がいるから大丈夫」と励まし続けた信仰の先輩、そして、執り成しの祈りを通して霊的に支えた聖歌隊の仲間がいたからこそ、信仰が芽生え、神様に重荷を委ね、困難を乗り越える力を得ることができたことを語りました。

## 2. 宣教旅行中の病の発症と癒しの体験 (クォン・ウヨン聖徒)

北海道宣教会で活躍するクォン・ウヨン聖徒は2月の札幌宣教中に極度のめまいや手足の痺れ、嘔吐と呼吸困難に見舞われ、病院に救急搬送された時の、病からの回復の体験を分かち合いました。

通常は回復に時間を要する病を、一晩で完全に回復し、宣教旅行の全日程を全うできたことは、苦しみの中で神様を強く呼び求めることができたこと、そして何より、担任牧師の癒しの祈りと札幌聖殿で行われた執り成しの祈りであると、告白しました。

## 志垣重政 担任牧師 証しのメッセージ

最後に、志垣重政担任牧師が証しを分かち合いました。

イエス様との真の出会いを成すまでの軌跡、神様から頂いたチョー・ヨンギ先生との世界宣教の夢、それを実現させることができた四次元の霊性体験、奥様の重篤な結核からの癒しのエピソードを用いて、神様の御業の素晴らしさを伝える証しを行い、御言葉を解き明かしました。

「まずは神の国と義を追い求めることが大切です。そして、その第一歩は、礼拝を中心とした生活に回帰することです。」と伝え、「人間的には実現できないと思えるような夢も必ず実現されること、病の癒しも必ず成就することを信じ、それを体験する聖徒となりますように。」と聖徒一同を祝福しました。



## 世界宣教 台湾・台北 新生命教会 祝福聖会 2024.1.9-10

台湾・台北にある新生命教会(New Life Church)の主管で開催された霊性訓練集会および祝福聖会に、志垣重政担任牧師が代表して参加しました。



1月9日19時30分より、新生命教会で霊性訓練のための集会が開かれました。

新生命教会のリーダー500名が集まり行われた訓練集会で、志垣重政牧師は数々の証を通して、「生きておられる神の御子、イエス・キリスト」について御言葉を分かち合い、3時間におよぶ霊性訓練と福音の伝播のための働きをし、神様の栄光を現わしました。

1月10日18時30分からは、HILIM HOTEL宴会場で祝福聖会が開かれ、台湾の著名な牧師250名と聖徒750人が集まり共に礼拝を捧げました。

聖会の後、新生命教会主任牧師のク・チュン牧師の古希の誕生祝および聖役40年の祝賀会が開かれ、志垣重政牧師が祝辞を述べました。

1996年に創立された新生命教会は当初11人から始まりましたが、青年を中心とした聖霊運動によりリバイバルが巻き起こり、今日では台湾の大型教会として、台湾の福音宣教に不可欠な教会へと発展を遂げました。現在も若い世代が中心となって、台湾全域を周り、福音が述べられています。

日本にも同様の聖霊運動が起こり、台湾に勝る福音化が成し遂げられると期待し、お祈りを願います。